

[パリ小町 ～パリで噂の美人娘～]

世界に誇るべき日本の伝統文化 KIMONO を武器に、遠くフランスで震災復興支援を続けている NPO 団体がある。その名は「パリ小町」。

震災直後、フランスでは多くのパリ在住の日本人アーティスト達がチャリティーコンサートを行い、日本への義援金集めていた。その姿に触発され思い付いたのが、日本から持ってきた着物だったという。パリ小町の代表、増田裕子さんは「人目を惹く着物を着れば日本人だと分かってもらえ、募金活動に一役買えるのではと思ったのです。」と話す。こうしてパリに住む日本人女性たちが集まり、2011年4月3日に行われた、チャリティーバザーの一貫である茶会手伝いから、パリ小町の活動は始まる。パリの街中で一際鮮やかな着物を纏い、茶の配膳や入り口での案内、整理券配布、別ブースでの茶と羊羹の販売手伝った。彼女らは「着物で何かできること」を合言葉に、チャリティーコンサートの会場案内やバザーへの出店など精力的に活動する。2012年7月5日には、パリ郊外で開催されたヨーロッパ最大の日本文化を紹介する祭典、JAPAN EXPO にパリ小町は、去年に引き続き2回目となる出店を行った。そこで彼女たちは3ユーロでの着付け体験や、石巻の着物をリメイクした和小物販売などを行って、4日間で総額 **1678.71** ユーロの収益を上げた。そうして現在でもその活動を通し、パリっ子の注目を集め続けている。

彼女らの活動が、ただの一過性ではなく現在まで長続きしているのは、復興支援以外にもその原動力が存在するからだ。着物を着て道を歩いていると、頻繁に「素晴らしいわね」、「美しいね」と声をかけられ、写真撮影を頼まれることもあるという。彼女達のささやかな喜びだ。一方で、このように着物の美しさを十分に知らしめるパリ小町の活動は、海外において日本の文化・伝統に興味を抱かせる契機となり得る。着物を美しいと感じる気持ちに国境はない。着物の魅力について、「着る者にとっては、着物の組み合わせは洋服にはない豊かな楽しみがありますし、着物を通して私達自身も発見できるものは多いです。」と増田さんは語る。

今後のパリ小町の展望について聞いた。「私たち自身がパリの街で着物を羽織ることで、花の都パリから着物の普及にも貢献していきたいです。」彼女たちからこれからも目が離せない。